

2023
秀作

第56回「おかねの作文」コンクール

適切なお金の支給とは

京都府・京都市立大宅中学校 2年 小川 瑠唯

私の母はシングルマザーだ。私が幼稚園の頃に父が突然亡くなり、まだ3歳だった私を抱えてシングルマザーとなった。そして、私は母方の祖父母の家で母と私の4人で生活することになった。私が小学生になると同時に母はそれまでパートで働いていた仕事をやめ本格的に正社員として働き始めた。朝の「おはよう」から夜の「おやすみ」まで母と顔を合わせることがない程母は長時間仕事をしていた。そんな母に代わり面倒を見てくれていた祖父母がいてくれたおかげで寂しさは感じなかった。祖父も仕事をしていて母・祖父の二人で生活を支えていた。普通の家庭と変わらないくらい何不自由なく育ててもらった。しかし2年前、大好きだった祖父が膵臓癌^{すいがん}のため亡くなった。高額な医療費に介護費用、お葬式の費用など保険でまかなえる分には限りがあるものばかりで、お金の支払いに追われる日々だった。なんとか支払いも完了したが、それからの母は私と祖母を養うために働き詰めた。

ある日、祖父が亡くなったことで複数の申請などがあったため母が市役所に行った際、市役所の職員にこう言われたそうだ。

「そんなに生活が苦しいなら、“生活保護”をもらわはったらどうですか。」

「生活保護」とは、国民が最低限文化的で健康な生活を送れるように保障するための制度¹⁾。日本では人口の1.6%が生活保護受給者であり²⁾、国の予算の2.5%前後が保障額として計上されている³⁾。

私は母から職員に生活保護について提案されたということを知り、それをきっかけに生活保護の問題点について考えた。

生活保護をもらうには受給者が働ける状態なら働き、その上で支援を受けなければ不正受給となり返還しなければならない。だが、本当に受給者の全員が適切なお金の使い方をし、適切な支援を受けているのかについて疑問を持った。調べると、残念なことに受給者の0.4%が不正受給をしている⁴⁾。0.4%というと

少なく感じるかもしれない。しかし不正金額は169億9,408万円と多額な金額となっている⁵⁾。また、生活保護で支給されたお金をギャンブルなどで散財する人もいる。果たしてこの人々は本当に困っているのだろうか。生活保護として支給されるお金は全て頑張って仕事をして働く国民のお金からとった税金である。不正をする人、不要なことに散財する人々のために働き、支援するのではない。このような問題をなくし、本当に必要な人に適切に支給されることがこれからの日本を良くしていくためにも必要なことではないのかと考える。決して生活保護を否定している訳ではないが、例えば支援をお金ではなく食料にする、働く場所を提供する、こういったことに支援内容を変えることでも高額な不正受給をなくすこと、働き口をつかむこと、そして生活保護を支給する上での最大の目標である「最低限の文化的で健康的な生活」を国民が送ることも実現できるのではないだろうか。

結局母は支援なしの生活を選び、仕事もこれまで以上に頑張っている。そんな母はいつも

「私はまだまだ元気だし働ける。そんな私に支援なんて必要ない。本当に必要な人に、お金を大事に使える人に支給してほしい。」

と言う。私が充実した生活が送れているのはきっと頑張ってくれている母がいるからだろう。そんな母を私はいつまでも尊敬し続ける。

(注)

1) ウィキペディア「生活保護」

URL <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%94%9F%E6%B4%BB%E4%BF%9D%E8%AD%B7>

閲覧日 2023年6月10日

2) 4) 日本弁護士連合会 パンフレット「Q&Aいまニッポンの生活保護制度はどうなっているの？」

URL https://www.nichibenren.or.jp/library/ja/publication/booklet/data/seikatuhogo_qa.pdf

閲覧日 2023年6月10日

3) 財務省広報誌「ファイナンス」4月号「令和5年度 社会保障関係予算のポイント」

URL https://www.mof.go.jp/public_relations/finance/202304/202304c.pdf

※2023年度の生活保護費等負担金(28,301億円)と2023年度予算一般会計歳出(1,143,812億円)で算出

5) 日本経済新聞「生活保護不正受給数が最多更新 15年度、金額は減少」

URL https://www.nikkei.com/article/DGXLASDG20HDM_R20C17A1000000/